

平成26年度予算案の査定を終えて



名寄市長 加藤 剛士

平成26年度予算査定は、平成25年12月から平成26年1月にかけて実施し、平成26年2月20日に、平成26年度予算案を記者発表いたしました。

平成26年度予算は、市長選挙を控えていることから骨格予算となりますが、義務的経費、継続中の事業、また年度当初から実行すべきものを中心に、市内経済や雇用に与える影響を考慮して、できるだけ多くの事業を計上いたしました。また、継続中の大型事業（市民ホール、南小改築など）があるため、事業費としても大型の予算となりました。

継続中の事業を中心にお知らせいたします。

主な事業の査定内容です

単位：千円

事業名及び概要	事業費	財源内訳				査定内容
		国道支出金	市債	その他特財	一般財源	
地域おこし協力隊事業 都市住民を地域に受け入れ、地域おこし活動の支援や住民の生活支援などの「地域協力活動」に従事してもらい、あわせてその定住・定着も図りながら、地域の活性化に貢献してもらいます。平成26年度では農業分野で2名を募集し平成27年度まで事業を実施する予定です。	要求額				9,965	地域の活性化に寄与していただく段階から、さらに定住までつながるような事業構築とし、査定しました。すでに平成25年度で農業分野において地域協力隊として活躍されている方がいらっしゃると思いますので、さらに人材を確保し、組織的な活動なども視野に入れて事業展開をお願いするところです。
	9,965 ----- 査定額 9,965 ○実施				9,965	
消防用デジタル無線整備事業 平成15年の電波法改正により、現在使用しているアナログ消防無線が使用できなくなり、デジタル方式へと移行が義務付けられました。本年度は各機器装置などの整備を行います。	要求額		200,000		24,393	アナログからデジタルへの移行は、避けて通れない課題です。またデジタル化によって、個人情報の漏えいが防止できる、大規模災害時などではより広い範囲をカバーし活動の迅速化を図るなどのメリットがあります。
	224,393 ----- 査定額 224,393 ○実施		200,000		24,393	

事業名及び概要	事業費	財源内訳				査定内容
		国道支出金	市債	その他特財	一般財源	
ふるさと納税推進事業 名寄市ではこれまでふるさと納税の趣旨に鑑み、寄付をいただいた方に北国博物館・天文台の年間無料バスポート券やピヤシリスキー場のリフト券などを送付してきました。近年では、地域の特産物のPR効果を兼ねてより効果的な取り組みを目指す自治体が多く、本市においても地域経済、地場産品の育成につながるものとして取り組みます。	要求額 150 ----- 査定額 300 ○実施（増額）				150 ----- 300	名寄市においても、他市に引けを取らない特産物があります。また地域ブランドの確立に向けて取り組みを開始しております。地域特産物のPRのツールとして位置づけ、贈答品だけに着目された過当な競争とならないよう節度を持って進めます。クレジットカードで簡単にふるさと納税ができるような環境づくりも予定しています。さらに、贈答品メニューを工夫し増額査定としました。
徳田地区流域防災事業 徳田地区においては、過去幾度となく大雨による被害を受けており、北海道の事業で豊栄川の改修などの対応をしてくれています。大雨被害の原因などを、該当個所の地形や排水などを調査し、さらに被害防止の方策を探るものです。	要求額 5,000 ----- 査定額 5,000 ○実施	2,000 ----- 2,000			3,000 ----- 3,000	大雨被害を受ける個所は、該当地域でも低地であります。豊栄川を中心に流域の地形などをしっかり調査し、さらに対策を講じるため必要と判断しました。
ご当地グルメ推進事業補助金 平成24年度に策定した観光振興計画では、「名寄」の知名度向上を図る上で、地域限定の独自性やストーリーなどの重要な要素を兼ね備えた「なよろ煮込みジンギスカン」を重要なコンテンツとして位置づけています。平成25年度では、市民理解を深めるため市内イベントの出展をはじめ、特に道外でのイベントでは民間主体のPR団体がB-1グランプリ北海道・東北大会や東京都中野区にぎわいフェスタなどにも参加してきました。平成26年度も民間主体のPR団体への支援を継続するとともに、宣伝効果が高いイベントへの参加を検討しつつ市内外に定着を図り、まちのPRや観光振興、地域の活性化を推進します。	要求額 1,403 ----- 査定額 1,403 ○実施		1,400		1,403 ----- 3	名寄市ならではの「食」というコンテンツの魅力を市内外に発信し、まちのPRや地域の活性化に取り組んできました。民間主体で取り組んできた事業であり、平成26年度では大規模な出展への支援を中心として、予算を計上することとしました。「なよろ煮込みジンギスカン」という魅力的なコンテンツのさらなる定着を目指します。

事業名及び概要	事業費	財源内訳				査定内容
		国道支出金	市債	その他特財	一般財源	
ピヤシリスキー場整備事業（改修工事） 名寄ピヤシリスキー場は、多くの市民の憩いの場とスポーツ振興の拠点の一つであるとともに、交流人口拡大のエリアとなっています。スキー場のリフトなどの施設設備については、設置後相当な年数が経過しているものがあり、利用客の安心・安全に配慮した改修が必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ・リフト非常用アンプ取替工事 2,635 ・第1リフト第4号支柱索受整備工事 1,393 ・第1リフト脱索検出改修工事 839 ・高圧気中負荷開閉器取替工事 1,080 ・ゲレンデ整備工事 1,160 	要求額 7,107				7,107	近年のスキー人口の減少に加え、燃料費の高騰や施設老朽化による小規模な修繕の増など、名寄ピヤシリスキー場の運営は厳しい環境下におかれています。しかしながら、安全・安心そして快適な利用ができる施設の提供は、市の責務でもあります。また、スキー場は交流人口拡大に資する拠点施設の一つでもあり、改修工事を実施することとしました。ゲレンデ整備については、緊急性が低く、オフシーズンの状況をみて判断することといたしました。
	査定額 5,947 △一部見直し			5,947	0	
有森裕子なよろひまわりリレーラン実行委員会補助金 平成25年3月5日に、女子マラソンオリンピックメダリストの有森裕子さんに「名寄ひまわりまちづくり大使」の委嘱状を交付させていただきました。これを機会として、平成25年7月27日に第1回「有森裕子なよろひまわりリレーラン」を開催し、前日には有森氏によるランニング教室も開催したところです。「楽しく走る」ことをコンセプトとして、平成25年度の取り組みを検証し、周知期間のあり方や、ひまわり開花時期での開催などを目指して取り組みます。名寄市は「ひまわりのまち」であるという認知の定着と、ひまわり観光の推進を図るとともに、地域のにぎわいづくりと地域経済の活性化を推進します。	要求額 2,760			1,000	1,760	ひまわり観光は、平成24年度から予算を計上し、策定された観光振興計画に基づき、事業展開をしているところです。予算要求のあったひまわりリレーランにつきましては、ロードレースではなくタイム申告制で、ひまわり畑を眺めながら「チームで楽しく走る」というものです。平成25年度では、災害支援で交流のある南相馬市の小学生の参加もいただきました。平成26年度も参加していただく予定になっています。 チームでのタイム申告制による大会ですので、計測チップを導入するなど円滑な大会運営についても工夫されており、要求通りの査定としました。
	査定額 2,760 ○実施			1,000		

事業名及び概要	事業費	財源内訳				査定内容
		国道支出金	市債	その他特財	一般財源	
南小学校校舎・屋内運動場建設事業 名寄市内小中学校適正配置計画に基づいた小学校の再編により、名寄南小学校の敷地内に新校舎・屋内運動場などを建設する事業です。 ・名寄南小学校校舎・屋内運動場施工監理委託料 4,740 ・名寄南小学校校舎・屋内運動場建築工事 545,240	要求額 499,990	170,165	329,800		25	名寄南小学校と名寄豊西小学校を再編し、新しい小学校として建設するものです。両校とも旧耐震基準に基づく施設であり、より安全な校舎とするとともに、充実した教育活動を実践できる施設環境を整えます。時代にあった教育環境を整備する観点から平成24年度より計画が進んでいますので、実施単価などを調整し査定しました。
	--- 査定額 549,980 ○実施（増額）	170,165	379,700		115	
大学建物診断業務事業 大学施設は建設から20年を超える施設が多く、適切に維持・管理を実施するためにはこれらの施設等の老朽度などの現状把握が求められます。施設全体の現況調査を委託し、これに基づいて施設台帳を策定し、中・長期の保全計画を策定するものです。	要求額 14,000				14,000	平成18年の四年制大学への転換時に現在の大学新館を建設いたしました。この時に昭和58年に建設された旧高校校舎を一部改修し、現在の恵陵館ができています。本館については昭和62年に建設されていますので、建設後20年を超えるものとなっています。大学施設の老朽化については認識しておりますが、設備整備と大学のカリキュラムなどの整合性や、今後の大学整備の方向性など、単なる老朽度のみの判断ではなく多面的な判断が求められると考えたところ。このため、建物診断に加えどのような進め方が最善かさらに検討することとし、ゼロ査定としました。
	--- 査定額 0 × ゼロ査定				0	
大学図書館整備事業 平成24年度に策定した、大学図書館の「基本構想・基本計画」に基づき、平成25年度は基本設計を実施しました。 平成26年度では、実施設計を行います。	要求額 40,000				40,000	大学の教育・研究の核となる施設である新図書館の建設は、平成18年の開学以来、名寄市立大学の大きな課題の一つでありました。平成25年度の基本設計を基本に、教育・研究に必要な施設設備や公立大学図書館としてのあり方を具体的に落とし込む実施設計を実施するものであり、要求通りの査定としました。
	--- 査定額 40,000 ○実施			40,000	0	

事業名及び概要	事業費	財源内訳				査定内容
		国道支出金	市債	その他特財	一般財源	
（仮称）市民ホール整備事業 （仮称）市民ホール整備事業は、名寄市民会館の代替施設と市民ホール機能を持つ芸術文化の拠点として、平成19年3月に策定された「新名寄市総合計画（第1次）」のなかに位置づけられています。整備計画は、国の社会資本整備総合交付金事業を中心に財源を確保していきます。平成26年度では、平成25年度に着手した市民ホールの新設事業と文化センター改修事業の継続分に加え、駐車場整備工事など外構整備事業を実施するものです。	要求額					（仮称）市民ホールは、建築後50年を経過した名寄市民会館の代替施設、また、舞台芸術鑑賞機会、市民団体の発表の場を提供し、名寄市のみならず道北圏の文化芸術の発信拠点としての機能をもつものです。また隣接する市民文化センターとして一体的に活用することにより、利用者の利便性の向上を図り、地域のにぎわい創出を目指し、新たなコミュニティを醸成しようとするもので、要求通りの査定としました。
	1,983,813	507,689	1,323,900	150,000	2,224	
	査定額					
	1,983,813	507,689	1,323,900	150,000	2,224	
	○実施					
智恵文中央地区浄水場基幹改良事業 当該施設は、平成3年の第1次拡張後22年が経過し、各種計装設備の老朽化から、機器の故障や不具合が数多く発生するようになり、維持管理に苦慮しているところです。安全で安定した飲料水を供給するために、改良を実施するものです。	要求額					簡易水道などいわゆるライフラインについては、給水停止など不測の事態が発生しないよう、常に良好な状態を保つことが必要です。また、事業については平成28年度までの改修について補助制度がありますので、必要な財源が確保できる期間に実施することとし、要求通りの査定としました。
	75,600	23,688	51,900		12	
	査定額					
	75,600	23,688	51,900		12	
	○実施					

